

## 解説（NOx 3 次規制関連）

国土交通省海事局安全基準課  
船用工業課

船舶の排出ガス規制 (NOx 関連) に関する日本提案、国際基準として承認！

### ◎ポイント

- ・ 3月31日から4月4日まで、英国ロンドンで開催された国際海事機関（IMO）第57回海洋環境保護委員会（MEPC57）において、船舶からの排出ガス規制強化を審議。
- ・ 窒素酸化物（NOx）規制はエンジンのNOx削減技術を前提とし、将来の船用推進プラントを方向付けするもの。このため、世界の主要船用エンジン製造国である我が国は、産学官連携の下、規制内容の検討と技術開発を一体的に進め、日本の技術的優位性を生かし環境面で合理的な規制強化を実施するとの戦略でIMO審議に対応。
- ・ 排ガス後処理技術によりNOx 80%削減を目指すとの日本提案は、各国の支持を受けて、国際基準として承認された（2016年実施予定）。

### （経緯）

船舶は国際的に自由に航行するため、その安全・環境規制は、国連の海事関係の専門機関である国際海事機関（IMO）で検討され、国際条約等の世界共通ルールとして各国で実施されている。

船舶のエンジン等からの排出ガス規制は、海洋汚染防止条約（MARPOL条約）附属書VIに基づき、2005年5月より全世界的に実施されている。IMOでは将来の技術水準の向上を踏まえて、2006年から規制の見直しを進めてきた。

### （日本提案と欧州提案）

船用エンジンから排出される主要な大気汚染物質であるNOxの規制については、エンジンのNOx削減技術を踏まえて規制レベルが検討される。すなわち、次期規制内容が今後の船用エンジンのあり方を方向付けし、世界の船用エンジンメーカーの業界地図に大きな影響を与え得る。このため、我が国は、中長期的な視点に立ち、合理的な環境規制の実現と我が国海事産業の優位性確保の観点から、産学官の連携の下、規制内容の検討とNOx削減技術の開発を一体的に進めるとの戦略でIMO審議に対応することとした。

他方、欧州においても規制強化を見越し、2004年から次世代船用エンジン開発プロジェクト（HERCURES計画）を実施し、これを踏まえた規制強化案が提案された。